

令和5年度 地域きずな座談会 ②

- 1 日 時 令和6年2月9日(木)
- 2 場 所 東岡三沢社会福祉センター
- 3 出席者 東岡三沢、下久保、上屋敷
(住民4名、コーディネーター1名、在宅介護支援センターやすらぎ2名、
介護福祉課2名、社協4名)
- 4 懇談記録

■地域の現状・よいところ

○現状

- ・比較的大きな町内である。町内会員は6~7割程。子どもが多かった頃は祭りやねぶたを運行していたにぎやかで、活発に活動していたが、最近では子どもが少なく、参加者も集まらなくなってきたので運行をやめてしまった。
よそから来た人が多い町内だが、交流が結構あるなど感じている。
- ・50世帯程の町内。昔は野球チームが2つできる程、子どももたくさんいたし、応援にもいっぱい行った。現在、子ども会がなくなり、母の会もどうしようかとなっている。人数が少なくなったがその分まとまりがある。
- ・町内の世帯数は250程。昨年は夏祭りや、花植え等の行事を開催し、100人程の参加者だった。子どもに参加してもらうため、まずは親御さんに参加してもらえるように考えている。
- ・三沢市でのいい所は、春になると山菜が良くとれること。春が来るのが楽しみ。

○町内会

- ・町内会行事参加者に商品券を配っている。
普段から行事に参加したり、軽い挨拶をする等、コミュニケーションをとることが大事である。会長が率先して動くことで住民も動いてくれる。
- ・毎日町内を一周して危険な場所等を確認しながら、町内会長として顔を覚えてもらえるようにしている。
- ・集金、回覧板等、班長さんの負担を軽くするため、班の人数を少なくした。結果、集金も楽になり、つながりも密になった。班内の高齢者の状況もわかりやすくなり、気にかけることができるようになった。
- ・高齢になると、計算等お金のことが心配ということで班長をやらない人も出てくるため、順番どおりに回らないこともある。
- ・町内会の班が25班あり、班長も25人いたが、7区14班にし、現在はスムーズに
いっている。

- ・ 集金業務は町内会費のみにし、様々な会費、寄付等はその中からまとめて払っている。
- ・ 行事に参加した人には商品券を配布している。貴重な時間を割いてきてくれた気持ちに感謝して還元している。
- ・ 子ども会がなくなってしまったが、町内会は子どもがいないと活気づかない。その親御さんたちには親御さんの会という形で町内会に残り、行事の時は手伝ってほしいと言っている。すると、行事と一緒に子どもがくることがあり活気づく。

○防災について

- ・ 町内会の区長に災害が起きたとき何が欲しいか、何が必要になるか考えてもらっている。そこから家庭で防災について話し合う機会ができていき、普段から災害に備えるように動いている。
- ・ 災害時の炊き出し訓練を毎年行うようにした。その際、婦人部の方たちが調理するのではなく、男性陣に食材のカット等をやってもらうなど工夫をしている。
- ・ 炊き出し訓練は口下手な方もコミュニケーションがとりやすくて良い。
- ・ 地域の学校の運動会等で防災関係のことをやって子ども達に覚えてもらうのもよいのではないか。
- ・ 市が持っている賞味期限の近づいた防災用の保存食の入れ替え時、町内会で安く購入する等できるのか？
 - 市役所の防災管理課から案内が来て町内会（自主防災）で申し込んだことがあった。直接防災に問い合わせしてみてもどうか？
 - 町内の世帯数が少ないため、防災の委員や係を決めることができない。非常食を常備する場所もないが、町内会での訓練に活用したい。
- ・ 災害時の受け入れや支援は町内単位か学校単位か。また避難場所はどこか。
 - この地域の指定避難場所は「堀口中学校」
 - 指定避難所に行かなければ救援物資等はもらえない。
まずは、町内会で公園等に集まって人数確認をしてから指定避難所に向かうことにしている。
- ・ 指定避難所に行ってもすぐに支援を受けられるわけではない。行政が実際動けるのは3日後として、集会所がつぶれなければ集会所でできることはやれるようにして、その後指定避難所へ移動、とできればよいと備えている。
- ・ コロナの関係で避難訓練はできていないが、災害が起きた時のマニュアルはしっかりある。
- ・ 他町内で避難訓練、炊き出し訓練等をしている話、災害時の備蓄品の話聞き、集会所がある町内はいいなと思う。

■地域の交流、集いの場

○交流

- ・年3回程交流会を開催しており、70~80人程が参加している。バーベキューや、バンド演奏、歌を歌ったり、いろいろなことをしている。引っ越してきた人が多いこともありにぎやかになった。今後も交流会は続けていきたい。
- ・行事をやると、だいたい100人くらい集まる。子ども達を集めるにはまず、親を連れ出すことが大事である。
- ・高齢者は足腰が弱って家から出て来れなくなる人がいるが、町内会の集まりに顔を出してもらったり、電話やメール等を活用してコミュニケーションをとり、いざというときに備えて、つながりをつくっていきたい。
- ・免許を返納してから歩いて行動をしているが、すれ違う人に挨拶したりしている。岡三沢小学校の生徒から、「おばあちゃん転ばないでね」と声を掛けられてとてもうれしかった。子ども達は挨拶をしてくれる事が多いので気持ちがいい。

○集いの場

- ・寺子屋はやめてしまった。市から補助金が出ているが、支出内容が経費として認められないものが多く、現在は寺子屋をやめ、町内からお金を出して同じ活動をしている。老人クラブの活動は他地区集会所を借りている。
- ・集まりの場で参加者は少なくなったが、楽しく活動をしている。男性の参加者は少ない。

■地域の困りごと、課題

- ・民生委員の活動の中で、名簿を確認してくださいと来るが、以前、子どもさんと同居しているとか、空き家だとか報告していてもまたリストに載って来ることもあり、行かなくてもいいところに行ったりすることがある。名簿をしっかり作ってもらいたい。

■その他

- ・民生委員、町内会長として、地域の1人暮らし高齢者3人と関わってきた。80歳か90歳くらいまでの10年、草取りや、雪かきを手伝っていたが、施設入所が決まったとか、子どもと同居が決まった時等、最後は何もなくなってしまう。ご家族の方に今後のことを聞くと、「教えなければいけませんか」と言われてしまうこともあり、少しむなしさを感じることもある。

- ・地域で見守りをしている高齢者に対し、住民で対応しきれない状況のとき、市の介護福祉課に電話して相談したらすぐに対応してくれたことがあり安心できた。
- ・町内会長と区長さんがラインを使い連絡を取り合っている。紙を使わなくてもいいし、確認事項等の返事もすぐ来る。とても使い勝手が良いなと思っている。
- ・マックテレビは三沢の歴史等、放送していて良いと思う。
- ・上屋敷町内会は東岡三沢一丁目にあり町内会名を東岡三沢一丁目町内会とするか町内で話し合った結果、なじみのある名前がいいということで上屋敷町内会となった。

■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。

- ・リストが来たら確認にまわるのか？
→その必要はなく、知らない人がリストに載っていたら、ここにはこんな人がいるんだなど、気にかけてもらえるとよい。
- ・市に提出するものはあるか？
→提出する物はないが、町内の方でないとわからないようなことについて、協力をお願いすることはある。